

ご近所の皆さん、お集まりをいただきました皆さんお早うございます。東海村議の大名美恵子でございます。

文字通り、その行方を東海村民はもとより、全国の皆さんからご心配をいただいております東海村長選挙、福島第1原発の過酷事故後、そして東海第二原発の被災後初めての村長選挙がただ今、始まりました。

日本共産党は、この選挙の村長候補として東海村明るい民主県政をつくる会とともに無所属の福田明さんを推薦して戦います。東海第二原発の再稼働を許さず、即時廃炉を求める福田明候補必勝のため全力を尽くします。皆さんの大きなご支持ご支援をどうぞ宜しくお願い致します。

一昨年の東日本大震災とこれにより引き起こされた福島第1原発の過酷事故は、私たちの暮らしから普段の生活、安全ななかで安心して暮らすと言う当たり前のことを一気に奪い、放射能という見えない恐怖にさいなまされて生きることが強いられました。

国民の命を守り、安心できる暮らしをとりもどすために、国のあり方はもちろん、自治体の首長のあり方が大きく問われてきたこの2年半でした。

とりわけ本村においては、原子力発祥の地ともてはやされ、安全神話を洪水のようにふりまかれてきて、これまでに旧動燃アスファルト固化処理施設での火災爆発事故、JCO臨界事故とその時点での国内最大級の原子力事故を、多くの被曝者と犠牲者まで出してくりかえしてきました。

しかし、これらは原発のための燃料作りや使用済み燃料の取り扱い過程での一部人災事故であり、原発施設そのものに問題があるわけではないと、本質的反省とともに事故を繰り返さないための本格的な議論が、国、事業所、関係機関でもなされてきませんでした。

こうした直接人の犠牲があろうとも何が

何でも原発を推進するというこれまでの国、電力関係機関、企業のあり方、そして原発立地自治体の首長や議会の住民を守るという主体性の無さが、福島第一原発の過酷事故に繋がってしまいました。

当然原発推進者らには福島事故を収束させることはもちろんできず、一つ一つの対応が住民を裏切ることばかりになっています。いまだ被害は計り知れない広がりが続いています。

今回の村長選挙はこうしたなかでたたかわれる選挙です。現職の村上村長は、本村の原子力、原発をめぐる状況を熟知しているからこそ、そして福島原発事故で原発がどんな状況下でも安全が確保されているなど全くの嘘だったということをおもいに多くの犠牲を伴ってでしか国民に知らせることができないこの国のあり方を鋭く見抜いたからこそ脱原発に至ったのです。

しかし、今回の村長選挙で、反省の無い原発推進陣営は、またもや過ちを繰り返そうとたくらみました。住民を守る立場に立ちきって物言う村上村長は、村長と認めないと、自らの引退をせまり、その代わり原発について住民に考えを示すことを許されない人物を候補者にたてるというたくらみです。福島原発事故後の住民の脱原発への思い、東海第二原発の廃炉を求める30万署名についてなど何一つ語らない人物に東海村政は任せられません。

これからの東海村長には、村内外の住民が願っている「脱原発、東海第二原発の廃炉」の願いを、住民の立場に立ち切ってどこに対してもきっぱり表明できる福田明さん以外にありません。どうぞ皆さん、皆さんのご支持を広げに広げていただきまして福田明村長を誕生させてください。ともに頑張りましょう。どうぞ宜しくお願い致します。